

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
司法・犯罪心理学			17831	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
十倉 利廣	選択	2	法務省心理専門職として犯罪アセスメントや処遇に従事する。 少年鑑別所長、矯正研修所長等を歴任する。			

授業の到達目標

- ・司法・犯罪分野の制度及び同分野の心理臨床の領域を概観できる。
- ・犯罪原因やメカニズムに関する諸理論を理解できる。
- ・警察関係機関、家庭裁判所（少年及び家事）、少年鑑別所、少年院、刑事施設（刑務所）、保護観察所、被害者支援領域における心理臨床業務に関する知識を習得する。
- ・非行・犯罪に関するアセスメント及び処遇技法に関する基礎知識を習得する。
- ・この授業を通して、KAISEパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を身につける。

授業の概要

司法・犯罪領域における心理臨床の理論や業務を理解するために、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につけるとともに、司法・犯罪分野の問題に対して必要な心理に関する支援についての基本的知識を身につける。

授業計画

- 1 司法・犯罪心理学の基礎知識
- 2 犯罪心理学理論の進展 1
- 3 犯罪心理学理論の進展 2
- 4 各種犯罪 1（窃盗）
- 5 各種犯罪 2（薬物犯罪）
- 6 各種犯罪 3（性犯罪）
- 7 各種犯罪 4（暴力犯罪）
- 8 捜査心理学 1（プロファイリング）
- 9 捜査心理学 2（虚偽検出、証言）
- 10 精神鑑定
- 11 家庭裁判所における心理臨床
- 12 少年鑑別所における心理臨床
- 13 少年院・刑務所における心理臨床
- 14 犯罪被害者支援
- 15 まとめ及び試験

授業の方法

講義を中心とする。資料等について、Web上で提供する。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、授業方法が変更されることがある。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

適宜レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%
なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、評価方法が変更されることがある。

欠席について

原則として、欠席数が5回を超える場合は成績評価対象外とする。

テキスト

毎回講義資料を配布する。

留意事項

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、授業方法や評価方法等が変更されることがあるので、留意しておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康・医療心理学			17835	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石川 慎一	選択	2	医師			

授業の到達目標

心理職に求められる健康心理学の基礎及び応用領域についての知識を深める。また、健康心理学に関する原理や方法、求められている専門性について具体的に説明できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

近年我が国でも心理の国家資格が誕生し、健康保健・医療分野における心理職の立場は確立しつつある。今後心理職による社会への貢献を考える上で、健康心理学、医療心理学の基礎知識の獲得、および近年の動向を把握してゆくことが必要である。この授業では、健康とは何か、疾病予防、健康増進に対する心理学的なアプローチについて、またストレスと心理支援、そして、健康・医療の様々な現場における心理支援の実践について領域ごとに幅広く学ぶ。

授業計画

- 1 ガイダンス 健康心理学とは
- 2 健康心理学におけるアセスメントと支援
- 3 ストレスマネジメント ストレスと心身の疾病との関係
- 4 各種の心理支援法
- 5 医療心理学 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援
- 6 医療心理学におけるアセスメントと支援
- 7 精神科、児童精神科
- 8 院内独立型心理室
- 9 心療内科
- 10 小児科（母子保健含む）
- 11 緩和医療
- 12 産業保健
- 13 地域保健活動の実際 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援
- 14 災害心理学 災害時等に必要心理に関する支援、多職種協働と医療連携
- 15 まとめと試験

授業の方法

講義形式で実施する。

準備学修

テキストの予習復習、小テストの準備、レポート作成等の課題を実施する。

課題・評価方法、その他

出席・レポート：60点、終了時課題：40点

欠席について

各授業への欠席で3点、遅刻で2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格となる。

テキスト

宮脇稔他編『健康・医療心理学』医歯薬出版株式会社 2018

参考図書

その都度適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
精神疾患とその治療			17851	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石川 慎一	選択	2	精神科医師			

授業の達成目標

公認心理師にとって必要な知識である代表的な精神疾患の症状・経過・治療に関して理解する。

- (1) 精神疾患の診断方法について説明できる。
- (2) 精神疾患の薬物療法、心理療法について説明できる。
- (3) 主要な精神疾患の特徴的な症状と経過について説明できる。
- (4) 主要な精神疾患の治療について説明できる。
- (5) リエゾン精神医学、多職種連携について説明できる。
- (6) 公認心理師の精神科医療における役割や支援について説明できる。

授業の概要

公認心理師にとって必要な知識である代表的な精神疾患の症状・経過・治療に関して学ぶ。

精神医学の考え方、精神医学的診断、精神疾患の治療方法である、薬物療法（向精神薬の種類、心身の変化等）や心理療法（心理療法の種類、本人や家族への支援等）等について概説する。また、代表的な精神疾患について成因、特徴、症状、経過、治療について解説する。さらに、精神医学の応用例として、コンサルテーションリエゾン、多職種協働、医療連携について学び、公認心理師の精神科医療での役割や業務について理解する。

授業計画

- 1 精神疾患とは
- 2 精神症状のみかた・精神疾患の診断
- 3 精神疾患と薬物療法
- 4 心理療法について
- 5 統合失調症
- 6 うつ病、双極性障害
- 7 強迫症、不安症群
- 8 適応障害
- 9 神経発達症群
- 10 児童・思春期における心理的問題
- 11 女性の心理的問題
- 12 高齢期における心理的問題
- 13 公認心理師の役割
- 14 リエゾン精神医学、多職種協働

15 まとめ

準備学習

Webで参照すること

全ての事前学習：テーマについてテキストを読み、関連箇所をまとめておくこと（90分）

全ての事後学習：学習内容の復習と課題（90分）

授業の方法

テキストを用いた講義形式で行う。毎回課題が出される。

成績評価の方法

毎回の課題60%

学期末課題レポート40%

テキスト

公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療/三村将ら編/医歯薬出版

参考文献

専門医がやさしく語る はじめての精神医学 改訂第2版/渡辺雅幸/中山書店/2007

留意事項

本講義は公認心理師カリキュラムの必修科目である。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人体の構造と機能及び疾病			17855	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医 人間ドック認定医 日本医師会認定産業医 インфекションコントロールドクター (感染管理)			

授業の到達目標

世の中には医学に関する知識や情報が溢れており、中には明らかに間違っているものもある。それらに惑わされず、病気を正しく理解するには、子ども大人にかかわらず、まず基本である人体の構造（解剖）、生理機能を理解する必要がある。その上で、その異常状態（疾病）の原因や成り立ち、経過を理解する（病態生理）。また、近年がんの生存率の向上、難病の生活の質の改善により社会復帰が可能となり、それらをサポートする体制の改善と社会の理解も必要とされている。そのために以下の項目を理解する。

1. 身体構造、生理機能を理解する。
2. 様々な疾病や障害の病態生理、症状、治療を理解する。
3. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病、支援制度を理解する。

授業の概要

子どもも大人も人の体は構造、機能ともに複雑であり、また、色々の器官が互いに作用し、内外からの刺激に対して、体の状態はある範囲で変動しながら（揺らぎ）、一定の状態を保つ恒常性（ホメオスタシス）を有している。この恒常性が崩れると病気（疾病）が引き起こされる。また、心と体はお互いに強く作用し、健康にも影響を与えることがあり、ストレスにより多くの病気が引き起こされる。病気とは言えなくても、ストレスが原因で体に症状が現われたり、逆に病気が心身に影響を与えることがある。医学の発達により病気の解明が進み、病態や症状が理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない知識を身につけることが可能であると考えられる。また、近年治療法の改善で、難治性の疾患を持ち治療しながら学校、社会生活が可能となり、それらをサポートする体制の改善や社会の理解も必要とされている。このような背景から、まず人の体についての基本事項を理解し、それを基礎として病気（疾病）の理解を深め、さらに、心や社会との関わり、支援についても学ぶ。

授業計画

- 1 生物としての人:生物学的特徴、生化学的特徴
- 2 人体の構造と生理 (1) 骨格筋 脈管
- 3 人体の構造と生理 (2) 神経 感覚器
- 4 人体の構造と生理 (3) 呼吸器 皮膚
- 5 人体の構造と生理 (4) 消化器
- 6 人体の構造と生理 (5) 血液 リンパ 免疫

- 7 人体の構造と生理 (6) 腎尿路 生殖器 内分泌 代謝
- 8 人体の疾病 (1) 病態 症状 (2) 循環器
- 9 人体の疾病 (3) 消化器
- 10 人体の疾病 (4) 呼吸器 (5) 腎尿路 生殖器
- 11 人体の疾病 (6) 内分泌 代謝 (7) 整形外科
- 12 人体の疾病 (8) 感染症
- 13 人体の疾病 (9) 神経筋 感覚器 心身症
- 14 人体の疾病 (10) 血液 免疫 アレルギー
- 15 人体の疾病 (11) がん 難病 認知症

授業の方法

スライド講義を中心とする。スライド資料、参考資料を配布するので講義内容を復習し、提示された課題のレポートを作成する。新聞、ネット、雑誌などの健康、病気に関する情報をチェックしておく。

準備学習

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①課題
講義内容のまとめ、提示課題のレポートの提出（全2回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。

②評価方法について、
平常点30%、定期試験70%

欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、一般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は3点減点、遅刻は1点減点。

テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容とその配布資料とする。

参考図書

一般雑誌ではあるが、Newton 別冊 巧みな構造としくみがよくわかる！ 人体完全ガイド 改訂 第2版